

第6回天気予報研究会の開催と講演募集のお知らせ

第6回天気予報研究会を下記の要領で開催します。

日時：2009年1月30日（金）13時30分～17時30分
場所：気象庁大会議室（予定）
趣旨：気象庁では、現在、水平解像度20 kmの全球モデル（GSM）のほか、雲粒や氷晶などの時間変化を陽に扱う水平解像度5 kmの非静力学のメソモデル（MSM）、さらに大気を持つカオスを考慮した台風アンサンブル予報モデルなど種々の予報モデルを運用しており、これらのアウトプットは民間の気象事業者でも利用されています。観測面ではドップラーレーダーへの更新やドップラーライダーなどの導入なども進められています。一方、予報技術者にとっては、こうした予報モデルや観測資源の内容、限界についての理解のほか、気象学における新しい知見の吸収も必要となっています。また、天気予報に対するユーザの要望も多様化しており、同時に情報の利用技術の開発も求められています。第6回研究会は、こう

した環境を背景に、昨年を引き続いて、メソ現象を主題に議論したいと思います。

テーマ：特に限定しませんが、上記の趣旨を踏まえた、局地的な降水・気温・風などのほか、前線やフェーンなど、さらに民間企業や大学などにおける天気予報なども大いに歓迎します。

講演申し込み要領：

応募締め切り：2008年11月20日（木）

講演者氏名、所属、題目、要旨（400字以内）、連絡先（電話、住所、E-mailアドレス）を添えてお申し込み下さい。

申し込み・問い合わせ先：

古川武彦「気象コンパス」

E-mail takefuru@eos.ocn.ne.jp

主催

天気予報研究連絡会
 運営委員：白木正規、高野 功、登内道彦、富沢 勝、古川武彦（代表）、水野 量、吉野勝美